

活動報告書

報告者氏名：高橋 誠二

所属：大分県立日田支援学校

記録日：2013年2月20日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部生徒

・ 障害名

自閉症

・ 障害と困難の内容

発語がなく、音声言語のみによるコミュニケーションが難しい。見通しが持てなかったり、要求が通らなかったりすると不安定になりやすい。また活動の合間など、何をしてよいかわからないときに不安定になりやすい。

【活動目的】

・ 当初のねらい

卒業後も利用し続けられるものとして、主に次の3点のためのツールとして利用したいと考えた。

○ 「見通しを持ち、落ち着いて活動できるためのツール」(スケジュール、手順等)

まずは、スケジュールを iPad にて提示したいと考えた。生徒は活動場所が示されたスケジュールボードを基本に、活動内容もわかるように学校では担任が作成した冊子も利用していた。これらの機能が1つになり、学校外でも同じように提示できないか、またこれを利用したやりとりもできないかと考えた。本人にとってのわかりやすさや操作性、支援者にとっての作成の容易さ、双方にとってのやりとりのしやすさといった点がどうか検証したい。

○ 「コミュニケーションツール」

生徒はコミュニケーション方法が確立されておらず、双方向のコミュニケーションが成り立ちにくい。主にカードや文字を用いたコミュニケーションのツールとして使えるか検証したい。

○ 「余暇活動のツール」

生徒は作業時間中よりも休憩時間中に不安定になりやすい傾向があった。活動の合間を楽しみながら落ち着いて過ごせるためのツールとなるか検証したい。

・ 実施期間

スケジュール提示は9月より、その他は6月下旬より実施。

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

【スケジュール・手順】1日の活動場所が縦型に提示された写真カードを剥ぎ取りながら、次の活動へと移っている。家庭でも放課後ヘルプでも同様である。週間（曜日ごとに行く場所）、月間（行事カレンダー）の予定表もある。場所だけでは活動内容がわかりにくいため、学校では担任が Excel で作成した A5 サイズの冊子も利用している。授業時間ごとに時刻（文字盤）・場所（写真）・活動内容（写真やイラスト）・一緒に活動する人（写真）等が示されており、活動時間と休憩時間は色分けされている。昼休みはまた違う色の空欄で、したいことを書き込める。手順書については、必要な活動ごとに教師が作成していた。

【コミュニケーション】指差しやジェスチャーが主な手段である。

【休憩時間の過ごし方】昼休みは毎日パソコン室へ行って好きな動画やDVDを観て過ごす。下校前、帰りの会が始まるまでの短時間に不安定になることがあった。

・活動の具体的内容（主なもの）

【スケジュール】『たすくスケジュール』を利用したスケジュール提示。冊子やスケジュールボードも併用。登校時に冊子と iPad を提示。

【タイムエイド】『TimeTimerHD』による授業(活動)時間提示、『おとうさんタイマー』による休憩時間提示。

【手順】『Safari』を利用したレシピ提示等。

【コミュニケーション】『絵カード・コミュニケーション』でのカード、『筆談パッド』『カンペ』での書字、『かなトーク』での文字入力によるコミュニケーション。

【学習】『ひらがな』等を利用した書字の他、『あわせ10』等による数の学習。

【余暇】『しゃぼん玉あそび』『神経衰弱』『地図パズル』『時計くみたてパズル』『YouTube』等。

・対象児（群）の事後の変化

【スケジュール】生徒はまず冊子を見て、その後『たすくスケジュール』を操作しながら全スケジュールをチェックしていた。iPad は自分で取るときもあれば取らないときもあった。1日の流れの中で次の予定を確認する場合も、冊子を使ったり iPad を使ったりしていた。子タスクが出てくるのには興味があり、あるものは比較的 iPad を使う様子が見られた。

【コミュニケーション】『筆談パッド』や『カンペ』を自ら起動し、書字により伝えようとするが増えてきた。『ひらがな』で書字の練習をした後にも、学習した単語を書いて伝えようとする姿が見られた。校外での昼食メニューを決めるとき、『絵カード・コミュニケーション』を用いると最初食べたいと表示したものと異なり、より意思が明確に示すことができた。『かなトーク』では示された文字を入力することはでき、発表の機会などに用いたが、普段自ら使って表現しようとするはなかった。

【休憩時間の過ごし方】昼休みは毎日同じ活動で過ごす。帰りの会前の数分間や授業後の休憩時間は教師側から iPad を提示すると、好きなゲームのアプリ等をして過ごすようになった。現在は、iPad をするだけでなく、プレイルームに行って遊ぶ等の意思表示をするようになり、合間の時間を過ごしている。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

【スケジュール】感覚的に操作できているが、これまで行ってきた方法は既に身につけており、『たすくスケジュール』に頼る様子はない。家庭や関係機関もこれまでのカード式で活動している。

【コミュニケーション】iPad の導入で一番目立ったものは、書字で意思表示することが増えたことである。書字で意思表示するものは要求が多いが、自分が書いた好きな場所（下記の表参照。本当は行きたいのだ

ろうが、今行けないことはわかっている) を読んでもらうこともする。カードを利用したコミュニケーションについては、これから重点的に取り組んでいきたい。支援者側からも書くことで伝わりやすくなったと感じている。

【余暇】 帰りの会前の数分間も『しゃぼん玉』や『神経衰弱』、『時計くみたてパズル』や『地図パズル』等のアプリをしながら過ごすことで、帰りの会前に不安定になることがなくなった。

・エビデンス (具体的数値など)

【スケジュール】 保護者や関係機関との話し合いから、基本は従来どおりカード方式で行い、それを補うものとしてタブレットを利用した視覚支援を行う方向とした

【コミュニケーション】 本人が自主的に伝えようとする時の手段と内容は以下のとおりである。

伝達手段	主な内容	例
指差し	行きたい場所、したいこと	トイレ、プレイルーム／電子レンジ (あたため)
ジェスチャー	したいこと、欲しい物、感情など	休憩、トイレ、こちょこちょ／DVD、ジュース／終わり、うるさい、だめ (×)、ください
書字	したいこと、行きたい場所、好きなこと (場所)	パソコン・DVD、あたため (電子レンジ)、ください／プレイルーム／ポプラ、ローソン、ほっともっと等の店名
カード	<学校ではなし>	<*家では買ってきてほしい物 (ジュース等) >

【余暇】 帰りの会前に不安定になった回数…iPad 導入前 2 回、導入後 0 回。昼休みの過ごし方はパターン化しており、産業現場等における実習時には休憩時間の過ごし方について心配された。iPad により動画を見る等して過ごすことで普段と大差ない活動ができ、初めての場所に 3ヶ所も行ったが、不安定になることはなかった。

・その他エピソード

生徒は書くことで確実に伝わる (できる) と思っているようである。例えば、「行きたい場所を指差す→書くジェスチャーをして iPad を要求→それを書く」といったことをする。確実に伝えるために書き、その要求を満たすといった感じである。好きな場所については、書いたものを見せて読んでもらうと消し、また別のものを書くといったやりとりをしばらく行う。これらのやり取りの中で、気持ちを落ち着けたり、自分の気持ちを伝えられたと感じて納得できたりするようである。



《筆談で行きたい場所を伝える様子とその文字》

書字により伝わることはわかってきたが、今後は自分で写真を撮ったり、インターネットで画像検索したりしながら、自分の伝えたいものを表現できるようになればよいと思っている。そこから、双方向のやりとりがもっとスムーズになっていけばと考えている。

また、タイマーを利用するようになり、区切りをつけて自主的に行動に移れるようになった。休憩時間に離れた場所に行っても、タイマーが鳴ると教室に戻ってくることができている。

今回の取り組みにより、生徒側からも支援者側からも伝えたいことが以前より伝わりやすくなっている。これを基に、生徒がより過ごしやすい環境を整え、生徒だけでなく、かかわる人みんなでコミュニケーションの楽しさを味わいながら生活していけるようにしたいと思っている。